

平成 24 年度事業報告

①事業所別予算に対する実績（予算達成率）

特 養	95.7%（稼働率 92.35%）	ショート	89.0%（稼働率 87.46%）
デイサービス	76.1%（稼働率 59.40%）	居 宅	130.9%（前年度延べ人数 92 人）

②運営

平成 24 年度は介護保険料の引き下げや補助金のカットに職員の定期昇給・人件費等の増大により厳しい状況であった。

入退所が例年になく多く、平成 24 年 1 月から平成 25 年 3 月までに 27 名の退所者があったが、それに対して入所待機者の状況把握が追い付かず、計画的な入所判定委員会が実施できなかった。（入所判定委員会の開催実績：1 回）多くの退所者があったが、要因の 1 つに開所から 9 年が経ち、利用者の高齢化・重度化があったことも考えられる。

また、6 月に 7 名、7 月に 4 名、2 月に 5 名と多くの入院者があり、年間を通して毎月平均 2～3 名の入院があったことも稼働率低下に大きく影響した。

③財務管理・経費節減等

空調設備の入れ替えに伴い、新たに 3600 万を借り入れたが、銀行よりの借入金に対する利率の交渉や借り換えにより、新たに発生する月 24 万円程度の返済を抑制することができた。

経費の節減に努め、事業費・事務費共に削減できた。中でもおむつ等の消耗品費に関しては入院者増により使用量が減ったこともあるが、使用する個別アイテムの再選定により高価な夜間用パッドの使用量が減り、スキントラブルもなく適正なケアができたことが、経費の節減につながった。（前年比：約 40 万円削減）おむつメーカーから実践報告会での発表も依頼され、排泄委員が参加・発表する予定。

④特養・ショート

入退所が多数あったことで、ご利用者を「知る」上では、かなり混乱し時間がかかってしまった。ご利用者の生活リズムは、他職種でのカンファレンス等を定期的実施し、職員間での情報共有や利用者の生活リズム・ニーズの把握はできたが、施設サービス計画を把握した上でのサービス提供には、充分ではない状況がある。

今後は施設サービス計画・24 時間シートの活用をもとに職員全員が統一したケアを提供していく。また、研修会等へ積極的に参加し、個々のスキルアップを図ることができた。今後更に学べる体制を整える。

●口腔ケア

H24 年 6 月に松浦 Dr を招き基礎研修を開催し、7 月から歯科衛生士の個別ケア指導を開始。現在、定期的な個別指導を継続的に行い職員の意識も向上しつつある。誤嚥性肺炎での入院も平成 23 年度が 11 名だったのに対し、平成 24 年度は 5 名と確実に結果が出た。

●看取りケア

前年度より1名多い8名であった。25年度は日赤との勉強会を企画しており、看取りに対する意識を高めつつ、他職種間で連携し、充実を図りたい。

⑤ショートステイ

23年度末以降、ロングショート利用者の特養入所が続いた際は、新規の利用希望者（ロング等）が決まらず空室が増加したことで稼働率減となった。5月以降は安定したが、今後は新規利用者の獲得に向け、営業活動を強化する必要がある。居宅介護支援事業所と連携をとり、空室状況を随時連絡していく。今後はアンケート等を実施しニーズの把握をすることも検討する。

⑥デイサービス

平成24年5月～8月までの間、ご利用者のご逝去や施設入所が集中した為、稼働率が落ち込み（5-8月の平均稼働率51%）、収入が前年度と比べ減となった。

稼働率アップのためには登録人数を増やすことが必要であり、特色あるサービス提供がリピーターの増加につながると考えている。日頃からご利用者個々のニーズを取り入れたサービスの実施（アセスメント・モニタリングの実施強化）や、個人でもグループでも楽しめるプログラムを多数用意し、多様なニーズに対応できるように取り組む。また広報活動を拡大、毎月のデイサービス便り作成や食事代無料のお試しデイサービス等実施し、各居宅介護支援事業所へPR活動を強化、新規利用登録増・稼働率アップを目指す。

※平成25年4月の稼働率74%

⑦居宅介護支援事業

トータルの受け持ち人数は24名であった。（予防を含む）

25年度は居宅介護支援事業所の所長の退職により、5月末時点で受け持ち人数はゼロとなった。6月より新たなケアマネージャーが入職するので、以前にも増して利用者獲得に努める。

⑧感染予防

手洗いや消毒の徹底・勉強会等を行ったことで、ノロウイルスやインフルエンザ等の発症・蔓延はなかった。

⑨防災

平成24年度の重点目標として、大地震による大規模災害への訓練を初めて実施した。各自がマニュアルをもとに緊張感を持って取り組み、初回としては、先ず先ずの出来であった。今後は、地元自治会・古江公民館等との防災に関する連携強化を図る為、共同訓練を行い、地域と共に災害に備えたい。

⑩苦情

特養：1件、ショート2件、デイ0件、居宅0件

特養（施設）に対しては床にホコリやゴミが落ちていること・スリッパが不潔に感じることに對してであった。このことに對しては各階に掃除機を設置、スリッパの新調等、早急に對応を行った。また、ショート利用に關する苦情は昨年度2件でスタッフが安定してきた8月以降は発生していない。今後更に利用者や家族から気軽にご意見・ご要望がいただける環境を整備する。（お褒めのお言葉も1件いただいた）

⑪地域交流

本年度も公民館・社会福祉協議会・民生児童委員協議会・福祉推進委員・ボランティアの方々や授産センター・近隣の介護サービス事業所の方々をはじめ、地域住民の皆様に夏祭りや敬老会などに多数協力・参加をいただいた。（平成24年度行事報告参照）

また、地域福祉の推進、生涯教育の一環として幼稚園・小中学校等の福祉体験学習の受入れも昨年に比べ参加人数・回数ともに増となった。地域の社会資源となるために始めた、清掃ボランティア活動にも毎回3名が参加。（3月～11月）その他、消防署・古江消防団の方々にも夜間想定火災訓練の視察や指導をいただき、総合的な地域とのつながりをさらに深めることのできた1年であった。

以上